

特集

まちづくりの現場から

住みたい上毛町推進プロジェクト

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために、町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを毎月シリーズで紹介するものです。今月は、「住みたい上毛町推進プロジェクト」の現場からお届けします。

全国的な少子高齢化の波は、上毛町においても山間の集落ほど著しく、過疎化は深刻さを増しています。これから10年先、あるいは20年先という長期の視点で考えたとき、皆さんは生まれ育った故郷にどのような未来を描くでしょうか。とりわけ「ヒトが元氣だといわれる上毛町では、豊かな自然環境に育まれた農林産物をはじめ、歴史・伝統文化などを活かした地域づくり活動が盛んに行われています。こうした活動の根底には、皆さんが「大切にしたいもの」や「無くしてはいけないもの」が存在し、それはきつと皆さんが誇る地域の宝です。一人ひとりの誇りを集めて、その価値を伝えていくことができれば、それが「上毛町らしさ」となり、魅力として映ります。今、地域の誇りを形にするため、将来を見据えた横断的で総合的な定住促進対策が求められています。

平成24年度から、地域資源を活用した交流・暮らし・仕事の好循環を作り出すために「住みたい上毛町推進プロジェクト」と銘打ち、主に2つの事業を展開しています。ひとつは、基幹産業である農業をはじめ、加工品などものづくりの現場における商売繁盛をサポートし雇用を生み出す

「こうげまち雇用続々プロジェクト」。もうひとつは、都市部に暮らすIT関連やデザイナーなどクリエイターの方々に、一定期間、体験的に生活をしてもらうことで、上毛町ファンを増やす「お試し居住プロジェクト」。これらは車の両輪として位置付け、高い効果をねらっています。

「田舎」の魅力は、地域の個性であり、それぞれ余所と比較するようなものではありません。上毛町においても、まずは潜在的なポテンシャルを磨き、それらの価値をきちんと届けていくことが大切です。

同時に、町を誇りに思う人と、域外の田舎志向や地域貢献に意識が高い人を繋ぎ、互いのニーズをマッチングさせるための仕組みをつくるのが求められているのです。

住みたい上毛町推進プロジェクトは、「いつまでも元氣な上毛町」を実現するその「きっかけ」となるプロジェクトです。

●問い合わせ先 企画情報課
TEL 72・3111（内線122）



こうげ帖
ワーキングステイやこうげのシゴトなどで上毛町に関わった15人の短編小説。有志による制作で、全国で開催された「マチオモイ帖」という展示会において、高い評価を受けました。



フォトマップ「KOUGE」
ワーキングステイ参加者が制作したガイドブック。上毛町の見所や特産品などが地図付きで紹介されています。

雁股庵（西友枝大入）

体験居住に提供していただいた物件のひとつである雁股庵は、築100年を超える古民家で、生活だけでなく仕事をする場所としても人気がありました。



ワーキングステイ交流会

期間中、ワーキングステイ参加者と町長とのトークイベントを開催。第二部では、東上有田集落の皆さんからおもてなしをいただきました。



こうげまち雇用続々プロジェクト
「九州福岡こうげのシゴト」
原石を磨き、価値を届けることで生業をつくる

上毛町ブランド創造協議会（上毛町、商工会、地域づくり協議会、道の駅、温泉館指定管理者で構成、平成24年2月設立）では、平成24年7月から厚生労働省の委託事業である「こうげまち雇用続々プロジェクト」を実施しています。愛称は「九州福岡こうげのシゴト」で、地域に仕事をつくる雇用創出の事業です。雇用を生み出すためには、地域に商売繁盛が起これなければいけません。そこで、既にある原石（農林産物、加工品、人材などが持つポテンシャル）に磨きをかけるための研修会などを開催し、料理家や建築家、デザイナーなど一流の講師陣がアドバイスをを行っています。

今年2月、東上有田集落11戸が一丸となって取り組む「果狩谷グリツリ研究会」では、まず5軒が農家民宿の開業を実現しました。これからは、おもてなしの料理や体験プログラムづくりなどを研究しています。その他にも、現在進行中の研究会は9つあり、農業経営者、加工組合、廃校活用交流センター、NPO法人、さらには、卵問屋や天然醸造老舗醤油蔵などの事業所も参加しています。それぞれがコンセプトワークを行い、目標や課題など足元から見つめ直す作業から始めています。協議会は、参加者自らが本質を見極め、繁盛への意欲と主体性を持って活動ができるよう、ひとつずつサポートを行っています。委託事業終了となる平成27年3月までに、磨かれた商品や人材などを上毛町のブランドとして、価値を伝えていくことで、きちんとした対価が得られる好循環をつくり出します。そして数値目標である58人の雇用創出を実現していきます。



地域のやる気をお手伝いします



こうげのシゴト事務所スタッフ

こうげのシゴト

お試し居住プロジェクト

「ワーキングステイ」

上毛暮らしのモデルと仕組みをつくりファンを増やす

平成24年度から、IT関連やクリエイターなど「場所を選ばない仕事」ができる都市部の若者を対象に、上毛町の空き家などで「働きながら暮らす」という体験居住プログラム「上毛町ワーキングステイ」をスタートしました。3組の募集に対して20組の応募があり、田舎暮らしのニーズを表しています。東京・京都・福岡からデザイナー・小説家・プログラマー・カメラマンなどのクリエイターが居住し、それぞれ1カ月を上限に、自らの仕事を熟しながら地域の皆さんとふれあいました。近年、全国的に「田舎」の自治体が一齐に定住施策を掲げ、外部人材を呼び込もうとする動きが顕著です。町ではターゲットを地域貢献やまちづくりに意識の高い都市部の人材に絞りました。そうすることで、具体的な町の魅力と課題の検証につながり、より現実的な上毛暮らしのファンを獲得することができるのではないかと期待しています。

参加者からの報告書には、地域コミュニティとの交流をはじめ、子育て、教育、通信、空間づくり（ワークスペース）など、上毛町における田舎暮らしのニーズや課題、そして提案などが記されています。

平成25年度からは新たに「田舎暮らし研究村構想」を掲げ、お試し居住プロジェクトの通年実施を計画しています。上毛町で「暮らし・働く」研究を行うサロンを開設し、そこには都市住民が訪れた際に地域へ繋ぐ「橋渡し役」を配置する予定です。サロンは、お試し居住プロジェクトのシンボルとして位置付け、いつでも好きなときに交流や居住ができる拠点として機能させていきます。4月に「地域おこし協力隊（総務省所管事業）」を活用し、上毛町地域おこし協力隊員を1名採用しました。田舎暮らし研究村構想の具現化に向けて、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきます。裏面「素適人」をご覧ください。